

社會經濟體系

8

日本評論社

社會經濟體系

第八卷

編輯便り

◇以前の編輯便りに記したこともあつたやうに、今の日本の學界に著しい現象の一つは、歴史に關する研究殊に我が國自身の歴史研究の旺盛になつたことである。社會科學の研究は、結局に於て歴史を其の材料とするものである。實驗の出来ない社會科學に於て、之れ丈けが許された研究の源泉である。事實を基礎とする研究でなければいけないといふ學徒自身が、いけないといふこと丈を云ふに急にして、事實そのもの、研究を怠つてゐた。今漸く歴史殊に日本の過去を回顧する時が到つたのは、確に我が社會學界に精力の餘剰が出来た證據である。

◇日本の研究の中で、殊に特異の地位を占むるものは、明治時代の研究であらう。此に世界の歴史に珍らしい異種文明の接觸がある。今迄世界史上に多くの異なる文化が接觸し衝突したことはあつた。然し明治の時代に於て我等の先輩の爲したやうに、其の各々が死滅することなしに、各々が保たれて併存されたことは歴史上に珍らしい。之

が果して調和と云へるか統一と云へるかは、暫らく別問題としても、異なる地盤に之れ丈の西洋文化を移植した點を、幾多の西洋人が驚嘆するのも決して無理ではない。模倣と云ふ非難は起りうるが、同時に併存性、順應性と云ふ能力は之を認めればならぬであらう。

◇かゝる特異なる明治時代の資料は、之を打捨て置けば、一日と散佚する。此に於て日本評論社の明治文化全集の企ては成つた。社會經濟體系の計畫の際に、明治文化の一章を設けると云ふ議はあつたのが、他日更めてそれ丈を一事業にしたいと云ふ念が當時既に萌してゐたのであつた。

◇本巻掲載の田中氏の「法律學」は從來の法學通論的のものゝ異り法律哲學的見地から試みられた意義ある述作である。戸田貞三氏は「家族制度」を「家族」と改題された。永く續いた土方氏の「社會經濟學」も近く完結する筈である。尙本巻には産業の部として藤原銀次郎氏の「製紙」を掲載する筈であつたが著者の都合により延期した。◇夏に入つて暑氣迫る、山に海に讀者の健在を祈る。

事務係より

▼御住所變更の節は必ず新舊住所を併せ記して御通知下さい。

▼毎月拂ひの方へは、拂込金に對して一々領收證を差出さず、配本を以て領收證に代へます。

▼配本着次第、次回の拂込をして頂くと、整理上大變好都合です。

昭和二年六月廿五日印刷

昭和二年六月三十日發行

東京市本郷區月町一ノ二五

編輯兼 發行者 鈴木 貞

印刷者 君 島 潔

小石川區久堅町百〇八

印刷所 共同印刷株式會社

東京市本郷區弓町一ノ二五

發行所 日本評論社

電話 一九七一
小石川 二九二二
振替東京 九六七八
製本 黒岩製本所

自然科學と社會科學

高橋 誠 一 郎

社會科學は自然科學を生母として産れ出た。而も其の獨立の發達は自己を母體に繋ぐ臍緒の切斷に始まる。

紀元前第五世紀の後期以前に於ける希臘哲學者の社會學説は、孰れも皆な、彼れ等の宇宙學の派生物に過ぎなかつた。自然界の謎に惑はされたる人々は、タレースの時代よりして、凡ゆる要素の發出する單一の物質的基體を發見せんことを企てた。タレースと同時代の後輩アナクシマンドロスは夙に人間界と物質界との對比を求めた。而して自然的要素の基體を物質的實體に歸せしむることなく、より、非物質的な「數の原理」に求めたるピタゴラスの原則は、一層容易に人間行爲の倫理的世界上に適用せらるゝを得るものであつた。彼れは正義の概念に對して其の數の原理を適用した。

古代人は不平等なく疑問なく安んじて古來の慣習の下に生死した。而も歴史の進展と人知の發達は徐々に人間の制度の鞏固安定を其の根柢から動搖せしめた。斯くの如き時に於て人々の思索は大宇宙の謎より小宇宙の謎に轉じて行つた。物質の問題は今や人間の問題と爲つた。人々は、曾つてイオニア哲學者が現視的世界の單一にして永續的な物質的基礎と、多數にして可變的な現象との間に劃せる區別に相當する「自然」

即ち永久的本性「法律」即ち因襲の多樣の對立に當面せざるを得ざるに至つた。而してソヒストは物質界の本質並びに其の暗示せる諸問題に關與せずして、自己及び自己を圍繞する自然及び社會に對する其の關係を知らんことを努めた。ソヒストは同様の思想的傾向を享けて、彼れ等よりも更らに深刻に、更らに眞面目に、之れを表明せるものがソクラテスであつた。彼れは當時の自然科學が單に根據なき獨斷の空虛なる思辨の集積に過ぎざるを見た。彼れは其の學徒の注意を斯くの如き無益なる勞働より背向けしめて、其の理解の範圍内に存する倫理科學の研究に盡瘁し、自然科學を學ぶは單に播種、收穫及び出帆の時期を知るの範圍内に止む可きことを彼れ等に命じた。彼れは一方に於て自然科學上の思索を以て營だに效果なきのみならず、又大目的なきものと觀るに共に、他方に於ては倫理的研究のみ唯り人間に取つて價值あるものにして、人間の知力は唯り之れに對してのみ適せるものなりと做した。斯くて自然科學は倫理及び政治科學は此の最大なる古代哲學者によつて全然絶縁せしめられたのである。而して彼れの最大なる學徒、プラトンの哲學は實有の全宇宙に關與するに至つたとは云ひながら、其の哲學的觀想究竟の對象は依然として「善」に存してゐた。斯くて彼れによつて論述せられたる經濟論は又た常に倫理學に從屬し、斷じて倫理的考察から分離せしめらるゝことがなかつたのである。

希臘思想に並んで永く歐洲の人心を支配せるイエスの教旨中には人間性に對する驚く可き洞察が示されてゐる。イエスの社會的教理は人間本性の求心力に強く訴へて、其の自然の遠心的傾向に對抗せんことを期せるものである。而も基督教理に系統を與へ、之れを弘達せしむるを以て其の任務と做せる中世のスコラ哲學

者は、自然及び現象界より其の面を背向け、其の眼前に横はれる事物を見んこせずして、只管、夢幻的靈知に沈湎した。人間の思想、感情及び行動に關する一切の問題は獨斷的定義の中に分解せしめられた。然しながらスコラ哲學の拘束より解放せられんこする近世哲學の努力は徐々に實現せられた。自然は再び觀察の直接對象と爲つた。自然に對する研究は哲學の至要なる目的物に化した。ルネサンス以後に於ける驚嘆す可き自然科學の發達は歐洲思想家の上に甚大なる影響を及ぼした。ケプレル、ガリレオ、ハアヴィ及びニュートン等の發見は物心兩界を隔つる深淵に架橋せんこする思索家の一團を産まなければ已まなかつた。形而上學者に取つては精神と物質とは絶對に相違せる二個の領域を形成するものであるが、實體及び知識の全領域は單一法則によつて支配せらる可きものではなからうか。而して初め個人的意識の方面に於て發見せられたる物理學的原理は漸次社會的界域に移された。洵に社會科學は舊神學及び形而上學に對する抗論として觀らる可きものである。フランシス・ベーコンは自然科學の研究を管だに其れ自體の爲めのみならず、又た倫理及び政治科學の基礎として説いた。彼れは自然科學を以て一切の科學を養育す可き偉大なる母と認めた。彼れは倫理及び政治科學に在つて吾人を指導す可き推理の典型が自然科學中に看出さる可きことを知覺した。斯くてトーマス・ホブズは其の「レヴィアサン」中の一章「國家の榮養及び生殖」に於て其の經濟學に關する一般觀念を表明し、サー・ウィリアム・ベチーは愛蘭土の「政治的解剖」を行ひ、而して先づ人體生理の上に心理學を建設せんことを企圖せるフランスワ・ケネーは、後年に至つて、恰も血液が人體内を流るゝが如くに、富の循環する態様を描寫した。

古典的經濟學說の成立を見たる時代に在つて著しく有力なりし科學の部門は數理的、物理的の其れであつた。是れ等の科學は孰れも皆な其の研究の對象たるものを以て、凡ゆる國、凡ゆる時代に於て、恒久不變なりと做すの點に於て一致する。經濟學を以て物理學と比較するの端を開けるものはジャン・バッチイスト・セーであつた。アダム・スミスに取つては、社會體は本質的に一個の生物であつた。然るにセーは絶えずニュートンの物理學との比較を反復して「社會物理學」を暗示した（事實上彼れは斯くの如き名稱を使用することにはなかつたが）。彼れに従へば、經濟學上の法則は萬有の本性より誘導せられたるものであつて、恰も有形物質界の法則の如く確實なるものである。そは重力の法則と等しく一定の國境內及び國政の範圍内に限定せらるべきものではない。従つて經濟學は普遍的法則を有する數學を模範として建設せらる可きものである。經濟學は數學と等しく、少數の根本原則と是れ等の原則より生ずる多數の系論とより成立するものと看做された。而してナッソー・ウィリアム・シイニョアに至つて經濟學は單に四個の命題よりして所要の推論の一切を容易に演繹し得る新幾何學と爲つた。

然るに第十九世紀の進むに連れて次第に發達し來れるものは自然科學中の生物學的部門であつた。而して終に生物學上の發見が、曩きに物理學上の發見の行へるが如くに、世界の人心を魅了す可き時期が到來した。精神科學及び歴史科學の論調にも顯著なる變化が生じなければならなかつた。經濟學も亦た此の一般的推移に漏る、こゝが出来なかつた。經濟學は如何なる物理的科學とも近親關係を有するものに非ずと觀ぜられた。經濟學は廣く解釋せられたる生物學の一部門であると思惟せられた。化學者の取扱ふ物質は常に同一である

が、經濟學は生物學に等しく單に外形のみならず、内部の本質及び組織も亦た絶えず變化しつゝある物體を取扱ふものなることが悟了せられた。

アダム・ミューラー及びフリードリッヒ・リストの如き初期の國民主義者は國民を以て生ける有機體若しくは准有機體と看做し、之れを個人の上に、又た個人と世界との間に置いた。獨逸經濟學者は社會制度の進化に注意して生物學的若しくは有機的見地を取るの傾向を有してゐた。ヴィルヘルム・ロッシヤーの企圖せる所のものは、國民經濟の解剖學及び生理學であつた。英國に於ても相對性の觀念を受容し、生物學の貢獻を承認する有力なる學者を出した。總がて人間社會を以て生物と同一視し、其の施設の總べてを以て類似の器官に比し、生理學上の法則をして社會的法則の領域に換位せしめて、經濟學を博物學及び生物學の附屬たらしむる謂ゆる「有機學派」なるもの、發生をすら見るに至つた。而して鐵道系統は靜動脈系統に、電線は神經系統に相當し、富は脂肪組織にして、株式取引所は心臟なりと稱するが如き、極端なる有機的類推論すら行はれた。然しながら此の學派は一時的成功の後、其の地歩を失つた。是も巧妙なる有機的類推を行へるハーバート・スペンサー其の人すら後に至つては、生ける有機體と人間社會とを同一化せんとする凡ゆる企圖に反對した。

社會學の祖オーギュスト・コントは人間社會を取扱ふ科學を分岐せしむるを以て全然不合理なりと做した。彼れは社會の總べての方面を抱擁する唯一の科學のみを承認して、之れを「社會學」と呼んだ。然しながら社會に於ける人間行爲の全範圍は、唯一の知識的努力によつて解析せられ説明せらるゝが爲めには餘りに廣

汎であり餘りに多様である。研究上の便宜から觀て、別個に考察せらるゝの自由を社會科學に與へざらんとするは不可能である。マーシャルの言ふが如く、コント及びスペンサーの天才によつて着手せられたる綜合社會科學建設の業は僅かに其の緒に着いたことすら稱せられることが困難である。自然科學も、希臘の諸天才が凡ゆる有形的現象を説明す可き單一なる基礎を求めんとするの態度を固執せる間は極めて遅々たる進歩を爲せるに過ぎなかつた。而して近世に於ける其の急速なる進歩は廣汎なる問題を其の諸構成部に分解せるに基く。經濟學は一個獨立の科學として力強く要求せらるゝに至つた。ウィリアム・スタンリー・ジェヴォンスは經濟學を彼れの時代に於ける混亂の狀態より救済するが爲めに、特に「經濟社會學」の一分科を承認せんとした。而して彼れが其の「經濟學理論」に於て説ける所のものは實に「效用及び自利の力學」を稱し得可きものであつた。一定事情の下に於て正常なる人間の間發生する經濟關係は數學的方程式を以て表明せられ得可きものと思惟せられた。

又た經濟學を以て數學よりも、寧ろ心理學と密接なる關係あるものと做し、數學的説明の使用を差控へたる填太利學派の研究も、其の用語に於ては數學的ではないが、其の調子に於ては數學的であるを稱すること出来る。數學を人事に適用せんとする一見「ガリヴァ旅行記」中の浮島ラビュータの哲學に類する企圖は幾多の場合に於て多大なる成功を收むることが出来た。

然しながら數學的方法には亦た數多の弊害及び缺點の存することが聽がて明かとなつた。「何人」も、他人の手に成れる經濟學說の冗長なる數學譯を讀むが爲めに其の時間を費すことが得策なりや否やは疑問なる

の觀がある」。マーシャルは其の理論を解明するが爲めに屢々圖式を使用するも、而も其の主たる學説は數學の援助なくして表明せられ得ることを教へてゐる。而して經濟學が量定し得可き原動力の作用に其の注意を集中しつゝある間は、其の最高貴なる相貌に於ける人間と其最善なる製作とは斯學によつて徹底せる取扱を受け得可きものではない。洵に吾人は經濟學に於ける機械的要素に對して人間的要素を完全に認めなければならぬ。洵に進化は意識が物質性を打破し征服し行く過程である。生命は創造的である。物質の必然性、因果性に對して生命の偶然性、自由性が存する。而して唯だ人間に於てのみ意識は其の束縛を破り其の自由を得た。自然科學が「必然」の領土に屬するに對し、社會科學は「自由」の版圖に進入する。

第八卷 目次

一家一言

自然科學と社會科學……………高橋誠一郎

本文

外國貿易問題(第一回、未完)……………堀江歸一……一

法律學(完)……………田中耕太郎……三

家族(完)……………戶田貞三……三

經濟史概論(完)……………河津暹……四

小作問題(第一回、未完)……………小平權一……二

部落問題(完)……………有馬賴寧……三

正統派經濟學(第三回、未完)……………アルフレッド・アモン…三七

希臘人の哲學思想(完)……………石原謙…二六

形式社會學及現象學的社會學(第二回、未完)……………新明正道…二九

法律思想史(完)……………小野清一郎…三二

勞働爭議(完)……………赤松克麿…三一

雜纂

文獻紹介

經濟史に關する文獻……………本位田祥男…二九

唯物史觀に關する文獻……………大森義太郎…四二

◇執筆者略歴……………四一九

◇編輯だより……………四二〇

外國貿易問題

堀江歸一

人國寶品出題

外國貿易問題

堀江 歸一

一 貿易の行はれる所以

現代の經濟組織に於て、分業なるものゝ、占めて居る地位の如何に重大であるかは、殆ど總ての經濟學者の承認する所であつて、之に對して抗辯の行はれることを許さない。蓋し今日個人にせよ、團體にせよ、自足自給の生活を送るものゝ、送つて之に満足して居るものは、絶無である。個人は自己の消費する物資の大部分を他人に就て購入するし、社會亦其欲望を充す爲め、他の社會の生産力に依頼するものゝ、頗る大であり、最も繁榮なる社會は自給の程度の最も寡少なるものであると云ふを憚らないし、又人類の社會的進歩は實に地方的若しくは一身的自給の状態を脱出した程度に依つて、測られると云ふことを妨げないのである。

斯くて一の領土と他の領土との間に物資の交換が行はれ、其領土が互に異なる國籍に屬して居れば、右の交換は即ち外國貿易である。而して貿易の行はれるや、一方に一國は自國に於て産出する能はざる物資を他國に求め、他國に向つて、其國に於て産出する能はざる物資を與へる形態に於て、之を見るに共に、他の一方には二國の間に於て、物資生産の條件に相違するものゝある爲めに、之を見るのである。例へば甲乙の兩國があつて、甲國は乙國に比較して、或物資（假に第一種の物資とする）を有利なる條件の下に、生産し得るにしても、他の物資（假に第二種の物資とする）を一層有利なる條件

件を以て、生産し得ることをたらば、宜しく第二種の物資の生産に全力を傾注し、斯くて生産された物資の一部を乙國に輸出し、乙國から第一種の物資を輸入することをも以て、得策とする道理である。蓋し或る物資の生産に適した地方ありすれば、其地方をして右の物資の生産に與らしめることは、世界に於ける物資全體の生産高を増加し、人の欲望を満足せしむるに資する物資の供給を増加する所以と爲るからである。

茲に於てか經濟學に於て、外國貿易は二國間に於ける絶對生産費の差違に依らず、比較生産費の差違を基礎として、行はれるものであると云ふ理論が成立するのである。而して此理論の實際に行はれる以上は、一國は假令他國に比較して、總ての物資を生産する條件に於て、優つて居り、一方に他國は一國に對して、總ての生産條件に於て劣つて居るにしても、尙ほ兩國間に於ける貿易は必ず存立すること云へるのである。蓋し前者は生産の總ての方面に優秀であるにしても、必ずしも其總てに生産上の能力を傾注する次第ではなく、優秀の程度の最も大なる方面に於てのみ、生産に従ひ、斯くて他國をして劣等の程度の最も少なき方面の生産に就かしめ、兩國の間に貿易の行はれる狀態を成すに至らしめるからである。故に一國と他國と交互的に二種以上の物資に於ける生産條件が相違して居らなければ、貿易の存在する餘地がないと云ふのは、一の誤解であるを認められる。固より貿易は先づ二國間に於て、互に一國內に産出する能はざる物資を交換することに始まるにしても、貿易の目的物たるもの、敢て此種の物資のみに止まらず、天與の富源に於ける分賦其他人爲の原因に依り、或る物資に就いて、二國の生産條件に優劣の差があれば、二國は互に他國に對して、生産條件の優越せる物資の生産に従ひ、其結果として得たる物資を交換し、以つて貿易を成立せしめる。生産條件に優劣の差ある二國が相對して貿易を營んだならば、物資の生産は總て生産條件の優越せる國に吸収され、條件の劣等なる國は經濟上に於ける立脚地を失ふに至ること云ふ考へから出發して、貿易其ものに反對し、又之を制限する議論が主張されるが、斯の如きは一の杞憂である。一國の資力や、勞働力には或る限度があり、一國に於ける物資の生産條件が他國に比較して、總て優秀であるにしても、

其優秀なるもの、内、比較的優秀なる條件に居るものを選んで、先づ生産に従ひ、比較的優秀ならざるもの、生産は他國をして之に當らしめ、其間に交換を行つて、各自の需要を充すことを以つて、最も有利なる結果を收めるものとする。此事はリカード以下英國正統學派に屬する經濟學者の主張した比較生産費の學說に依つて説明される。試にリカード自身の言葉を掲げれば實に左の如くである。

機械並に熟練に於て、著しき利益を有し、隨つて其隣國よりも寡少なる勞力を以つて、物資を製造するに適する國があるとして、斯る國は隣國よりも豐饒なる土地を有し、隣國よりも寡少なる勞力を以つて、穀物を產出するを得る場合に於ても、尙ほ隣國より穀物を輸入して、自國の消費に充てるであらう。此事は恰も茲に二人あつて、共に帽子と靴との製造に當るを得るが、一人は兩者の製造に就いて、他の一人に勝つて居り、帽子の製造に就いては二割方、靴の製造に就いては三割三分方勝つて居るをすれば、優秀なる人は靴のみの製造に従ひ、劣等なる人をして帽子の製造に當らしめること、するのが双方に取つて、共に有利なる結果を齎すを得るの同一の道理を以て、説明される。

斯の如くして外國貿易が二國間に於ける比較生産費の差違を基礎として、成立するに至ることを云ふ理由が説明されて、遺憾なきを得るのである。」

二 外國貿易の利益

即ち外國貿易は國際間に分業を誘致するに共に、或る生産事業殊に生産條件の最も優秀なる事業を或る國に集中せしめ、其効果を經濟生活に於ける諸方面に及ぼすを得ることを云へる。即ち自國內に產出されない物資を貿易の目的物とするときは、此以外の方法を以つてしては、消費者に近づかしめる能はざる物資を彼等に消費せしめ、消費品の種類を潤澤にし